

EUIJ 東京コンソーシアム『EU Economy』共同研究グループによる  
第2回国際ワークショップのご報告

小川英治

9月23日、EUIJ 東京コンソーシアムにおける『EU Economy』共同研究グループによる第2回国際ワークショップが一橋大学、EUIJ 東京の会議室で開催されました。共同研究グループはEU経済、特に2004年以降のEUにおける経済と通貨の統合についての研究を行っております。毎年開催される国際ワークショップでは、私たちグループの研究の成果を発表するとともに、欧州からの研究者たちとEUにおける経済と通貨の統合の問題に関して意見交換を行っております。今回は、Carlo Altomonte 助教授 (Bocconi University)、Ansgar Belke 教授 (University of Hohenheim)、Lorenzo Bordogna 教授 (University of Milan)、Giancarlo Corsetti 教授 (European University Institute)、Annamaria Inzelt 博士 (IKU Innovation of Research Centre)、Salvador Ortigueira 教授 (European University Institute) 6名の著名な研究者を欧州から招聘し、全体で48名の研究者がワークショップに参加しました。

当日は、8名のスピーカーが各々の研究論文の発表をワークショップで行い、討論者がそれぞれの発表者に有益な意見を述べ、また、それぞれの研究論文について活発な討論が行われました。最初のセッションでは、田中素香教授 (中央大学) が“A Comparison of Two European International Currencies: The Euro and the Deutsche Mark”、Giancarlo Corsetti 教授が“European Monetary Union and a Common Monetary Policy”、そして Ansgar Belke 教授が“Instabilities of the Eurozone?”という題名でそれぞれ研究発表を行いました。第2セッションにおいては、小川英治教授 (一橋大学) と 熊本方雄助教授(東京経済大学) による“Financial Integration of Money Markets in Euro Area Countries”の発表に続き、Annamaria Inzelt 博士による“Private Sector Involvement in Innovation Policy-making”、Salvador Ortigueira 教授の“Technology and Labor Relations in Europe”の論文発表が行われました。最後の第3セッションでは、Lorenzo Bordogna 教授による“The Future of Social Europe: problems and prospect”の研究発表、Carlo Altomonte 助教授による“Employment and Productivity Dynamics in Europe: an Assessment of the Lisbon Strategy”の発表が行われました。